

平常時

目標：災害が起きる前に要配慮者と顔の見える関係づくりを進めましょう

自助の推進

家具の転倒防止の案内・手助け



家具の転倒は、避難の妨げになるだけでなく、命を落とす要因にもなります。

※器具取付費用に使用できる市補助金があります。

共助の取り組み

日ごろからの声かけや見守り

日ごろから声かけを実施することで顔見知りになり、いざという時、信頼関係を持って支援できます。



防災情報ツールの確認

災害時に情報を得る手段は一つではありません。可能な限り、いろんなツールを使うようにしておくことが重要です。



・芦屋市に大雨警報が発表されました。
・〇〇地域に避難勧告が発令されました。



あしや防災ネット

緊急告知ラジオ

地域イベントや訓練への参加促進

イベントや訓練への参加を契機に、顔の見える関係が築けた例もあります。



市内でも黄色旗を用いた安否確認訓練の実施例があります。



非常持出品、避難所の確認

日ごろからの備えの確認は、いざという時の円滑な避難につながります。また、人任せにならないことで、自助力もアップします。



地区マップ上に要配慮者の所在を落とし込み、役員間で図面共有

地区防災マップは地域の実情を把握する最適な手段です。

役員間で共有することで見えなかった課題や解決策も出てきます。



個人の備え、防災意識の促進を図ることで、

- できることとできないことが明確化します
- 災害時に必要な避難支援の範囲が分かります
- 支援者も被災者であることが理解されます

顔の見える関係づくりのためには、次のようなことが重要となります。

- 地域住民と当事者が接する機会を増やすこと
- 代表者や民生委員・児童委員だけでなく、地域の中で知っている人を増やすこと

この他にも、「個別にヘルプカードを作成」、「地区を分け、要配慮者毎に助ける班長を割当て」、「生活援助員と相談し、居住実態の確認（入院、入所など）に活用」といった活用事例があります。

要配慮者名簿活用事例 ～名簿をきっかけにして次のような取り組み（一例）を行ってみませんか～

災害時

目標：支援者も被災者です！無理のない・できる支援を行いましょう

電話等による安否確認

自分で避難できない人や危険な地区に住んでいる人など、名簿を見て電話や訪問などで安否を確認します。

他の支援者と割り振りを事前に決めておけば、重複を防げます。



自宅を訪問し、避難所へ一緒に避難

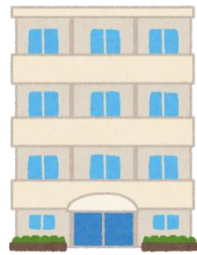
自分で避難ができず、地域支援者もいない人は、付き添っての避難を検討します。

ただし、事前に個別で話し合っておくことや地区内で共有しておくことが大切です。



マンションの階段を下りるお手伝い

発災時は、停電等によりエレベーターが停止して、階段を降りられない要配慮者がいるかもしれません。例えば同じマンション内で気になる人を把握していれば、避難時にお手伝いができます。



※一人で抱え込まずに周りの人の協力も借りることが重要です。

在宅避難の支援

在宅避難をしている要配慮者は、情報や物資等が不足している場合があります。

避難者カードの提供や避難所からの情報等を届けることで不安が和らぐこともあります。

避難者カード	
該当するほうに○をつけてください	1 避難者（避難所での生活を希望する方）
	2 在宅被災者（自宅等で生活するが配給等が必要な方）
世帯代表者	住所 〒 - 電話 () - 携帯

避難支援の形は一つではありません。自分たちの地域では、どのような避難支援が可能かを検討しましょう。（地域支援者自身や家族の安全を確保していることが前提です。）

問い合わせ

【要配慮者名簿に関すること】

芦屋市都市建設部防災安全課 TEL:0797-38-2093

【緊急・災害時要援護者台帳に関すること】

(1) 高齢者や要介護認定を受けている方の名簿登録に関すること

芦屋市福祉部高齢介護課 TEL:0797-38-2044

(2) 障がい者手帳をお持ちの方の名簿登録に関すること

芦屋市福祉部障がい福祉課 TEL:0797-38-2043

(3) 民生委員・児童委員に関すること

芦屋市福祉部地域福祉課 TEL:0797-38-2113